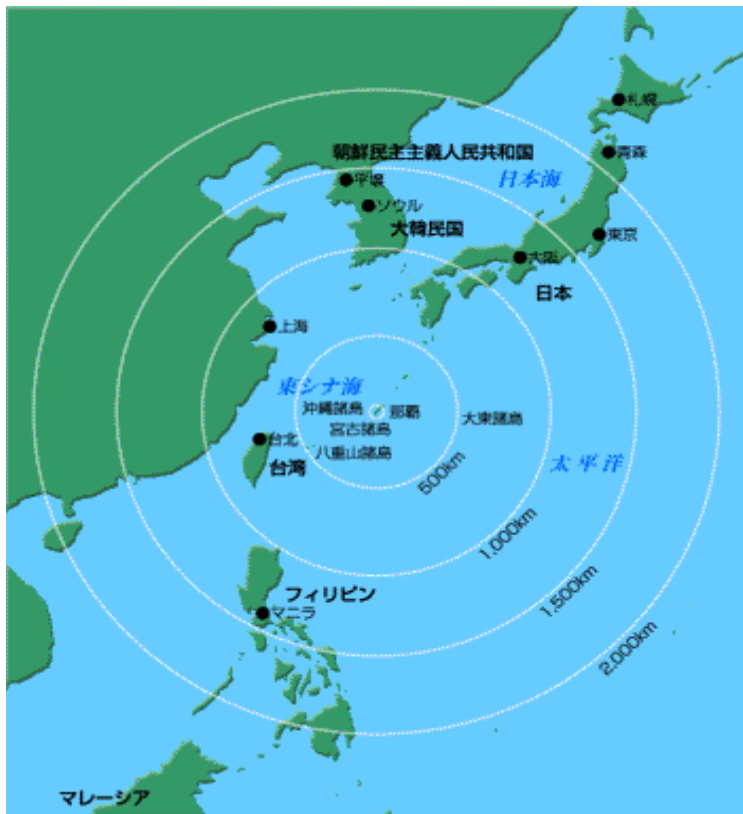


琉球大学病院 がん化学療法チーム



都道府県の情報

都道府県内の総人口 1,443,802 人
がん死亡者数(%) 3,034 人(0.21%)
高齢化率 20.4 %



都道府県内のがん患者の状況

がん種	罹患者数	罹患率 (人口10万対)	死亡者数	死亡率 (人口10万対)
肺がん	949	65.8	601	42.0
大腸がん	1,512	104.8	449	31.4
胃がん	567	39.3	239	16.7
乳がん	1,051	72.8	134	9.4
肝臓がん	290	20.1	181	12.7

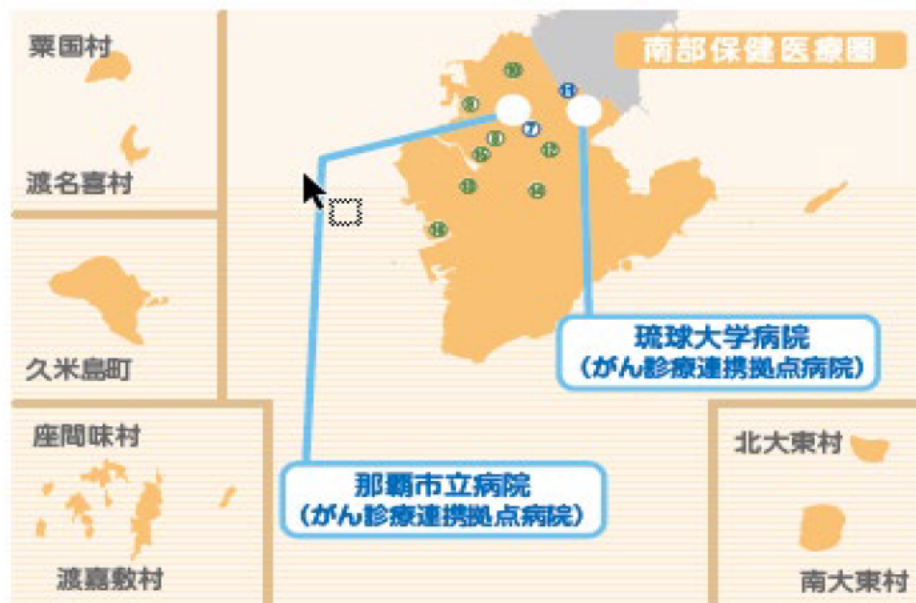
がん診療連携拠点病院の情報

都道府県がん診療連携拠点病院 1施設
琉球大学病院 600床

地域がん診療連携拠点病院 2施設
沖縄県立中部病院 550床
那覇市立病院 470床

がん診療病院の情報

地域がん診療病院 3施設
北部地区医師会病院 236床
沖縄県立宮古病院 305床
沖縄県立八重山病院 302床



国指定 がん診療連携拠点病院 (3病院)

国指定 地域がん診療病院 (3病院)

- ① 北部地区医師会病院
- ② 国立病院機構沖縄病院
- ③ 沖縄県立中部病院
- ④ 中頭病院
- ⑤ 中部徳洲会病院

- ⑥ ハートライフ病院
- ⑦ 那覇市立病院
- ⑧ 沖縄赤十字病院
- ⑨ 大浜第一病院
- ⑩ 浦添総合病院

沖縄県推薦 がん診療病院 (13病院)

- ⑪ 琉球大学病院
- ⑫ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
- ⑬ 豊見城中央病院
- ⑭ 南部徳洲会病院
- ⑮ 沖縄協同病院

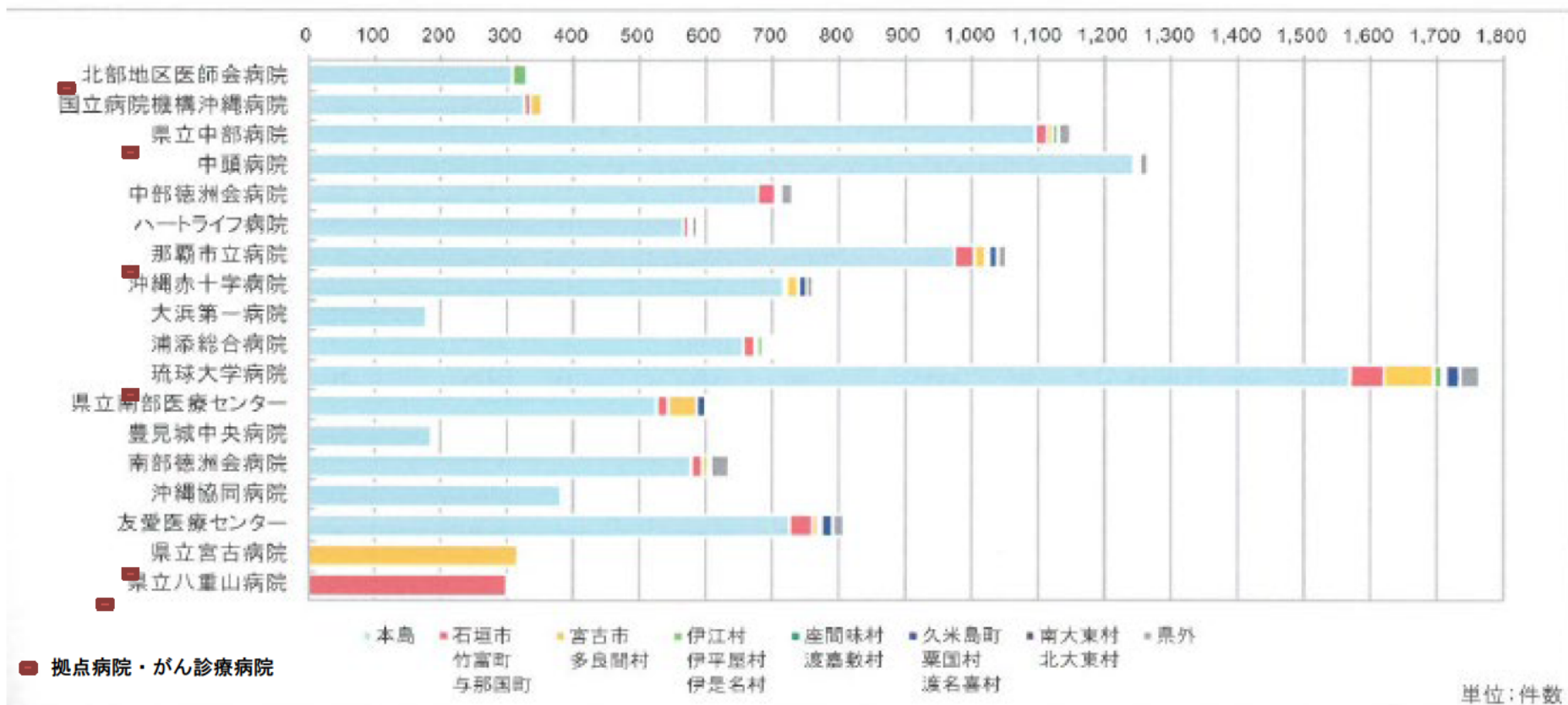
- ⑯ 友愛医療センター
- ⑰ 沖縄県立宮古病院
- ⑱ 沖縄県立八重山病院

都道府県におけるがん医療の特性

- 沖縄県の高齢者人口(65歳以上)の割合は、1990年に10.0%、2015年に約20.0%、2040年は約30%と推計されており、高齢化に伴い、がんによる死亡は今後も増加していくことが推測されている。
- 喫煙率は、男女ともに全国より低く推移しており、全体的に低下している。
- がん検診受診率は、全体では微増しているが、精検受診率は全国より低い状況にある。
- 沖縄県のがんによる死亡数は全国より4年早く、1977年以降、死因別でがんが1位となり、その後増加している。がん死亡の全死亡に占める割合は26.3%である。

都道府県におけるがん医療の特性

施設別 本島・離島市町村在住患者*別 登録数



県内では拠点病院を含む約18施設でがん診療が行われている。5大がんはおおむね均てん化が進み、一部のがん(口腔・咽頭、子宮体部、血液腫瘍、骨・軟部組織、脳・中枢神経系)で、特定の医療機関への集約が進んでいる。(抜粋「沖縄県院内がん登録集計報告書2019年症例」)

都道府県におけるがん医療の特性

- がん治療施設のほとんどが本島に所在していることから、離島地域においては放射線治療や一部の化学療法が行えない。
- 集学的治療等の提供体制や多職種によるチーム医療体制については、医療機関毎で運用に差がある。

がん治療を外来で受ける患者の増加による受療環境の変化により、入院・外来その他それぞれの段階において、状況に応じたチーム医療を提供することが求められている。

がん医療における沖縄県の全体目標(第3次がん対策推進計画)

1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
2. 患者本位のがん医療の実現(がん医療と人材育成、医療提供体制等)
3. 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】

- ・ がん薬物療法専門医(3名)、がん化学療法看護認定看護師(18名)、がん専門薬剤師(4名)が少ない。また、所属している拠点病院が少ない。
- ・ 外来化学療法室の病床が少ない(当院:12床)。
- ・ 外来化学療法室等でがん治療の相談を専門外の職種が対応している施設もある。

【課題】

- ・ がん薬物療法専門医・がん化学療法看護認定看護師、がん専門薬剤師の増員、各拠点病院での育成。
- ・ 外来化学療法の実施件数が少ない(約250-300件/月)。
- ・ 県内でがん化学療法におけるチーム医療について学ぶ機会が少なく、各機関での取り組みが不透明。

研修の概要

【タイトル】がん化学療法チーム研修 WEB

【目的】

どこの施設においても、施設の課題に応じたチーム医療が実践できる。

【対象者・人数】

化学療法の管理や相談に関わっている医師・薬剤師・看護師・MSW

1施設から4職種1チームでの参加。定員6チーム

※募集する際に、今後薬物療法認定資格取得を目指される方を優先する旨の文言を入れる。

【目標】

一般目標(GIO)

1. チーム医療について他職種の役割を理解する。
2. がん化学療法チームが患者の背景を踏まえて、症例に対応できる。

到達目標(SBO)

1. 参加者が自分たちの課題解決へのヒントを持ち帰ることができる。
2. 院内と院外の連携を深め、情報共有・情報発信ができる。

プログラム

開始	終了	時間 (分)	研修方法	内容
12:30	12:45	15	オリエンテーション	趣旨説明、アンケート記入 グループワークの説明
12:45	13:35	50	施設・チーム紹介	参加施設毎に事前課題の発表 発表5分、質問3分
13:35	13:45	10	休憩	
13:45	14:15	30	施設別グループワーク	各施設の現状と課題の明確化
14:20	14:50	30	職種別グループワーク	同じ職種同士で 課題について意見交換
14:50	15:00	10	休憩	
15:00	15:45	45	施設別グループワーク	自施設で取り組めそうなことを共有
15:45	15:55	10	休憩	
15:55	16:45	50	発表	参加施設毎にグループワークの内容発表 発表5分、質問3分
16:45	17:00	15	講評	総括・アンケート記入

研修会開催前の事前課題

【タイトル】 がん化学療法チーム研修

【方法】

参加施設毎に事前課題を配布し提出してもらう。

所属機関のチーム医療の実施状況や課題について集約する。アンケートは受講前後の変化がわかる様項目を設定し、内容を参加者のモチベーションや参加意欲に繋がる様にテーマに反映させる。

【内容】

1. 共通の質問項目

施設名

主たる診療科・対象疾患・がん腫の特徴

おおよその(入院・外来)患者数

がん化学療法の実施状況：

外来、入院（内服、点滴）の実施件数、代表的なレジメン、化学療法に関わる職種や人数等

がん化学療法におけるチーム医療の実施状況

2. 各職種への質問項目

経験年数

がん化学療法に携わっているか

がん化学療法について学ぶ機会の有無

がん化学療法について感じている課題（自由記載）

がん化学療法について、うまくいっている点、困っている点（自由記載）

研修の評価

【実施評価】

研修参加希望施設数、研修会の日時・場所・予算などに関して適切であったかの振り返り

【結果評価】

研修前後のアンケートの回答を比較し満足度・課題解決達成(見込み)度を評価

【企画評価】

事前課題の内容、研修方法及びその内容などに関して適切であったかなどを評価する
